法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

戸主権ノ喪失

(発行年 / Year)
1910

戸主權ノ喪失

法典調査會

第三節　戸主権ノ喪失

理由　戸主権ハ一家組織ノ至重ノ要素ニシテ戸主ニ属スル公私ノ権利義務ハ即チ戸主権ノ得喪ニ因リテ発生又ハ消滅スルモノナレハ戸主権ノ得喪ハ極メテ之ヲ明確ナラシムルコトヲ要スル如キトモ一家ヲ創立シ又ハ分家ヲ為スコトニ因リテ戸主権ヲ取行スルカ如キハ勿論法律ノ規定ヲ要セス又家督相続ニ因リテ戸主権ヲ取行スルコトハ相続編ノ規定ニ依リテ明白ナレハ戸主権ノ取行ニ関シ殊更ニ本章ニ於テ規定ヲ設ケハ必要ナシ之ニ反シテ戸主権ノ喪失ニ付テハ其原因種々ニシテ法律ノ明文ニ依リ特ニ之ヲ規定

法典調査會

寫

スルコトヲ要スル事須決シテ女カラスト雖モ
テ死亡、失踪、女戸主ノ結婚ノ如キ戸主ノ離婚ノ
如キハ総テ戸主権喪失ノ原因タルベシト雖
モ此等ハ別ニ明文ヲ以テ之ヲ規定スハ必要
ナキニ及ヒ戸主カ隠居ヲ為シ又ハ一家ヲ廃
絶セシムルコトニ因リテ戸主権ヲ喪失スル

法典調査會

場合ノ如キハ他ニ之ヲ規定スヘキ適当ノ場
所ナキヲ以テ本章ニ於テ豫メ其規定ヲ設ケ
隨意ニ戸主権ヲ喪失シテ濫リニ公私ノ利益
ヲ害スルコトカラシムルコトヲ要スル基シ
即チ本案ハ敢成房典ニ其例ナキニ拘ハラス
本節ノ規定ヲ設ケ戸主権喪失ノ原因トシテ

殊ニ規定ヲ要スルモノヲ掲ケル所以ニシテ

既ニ隠居ニ関スル規定ハ既成法典ニ於テハ

之ヲ財産取得編ニ掲ケ單ニ家督相續ノ原因

ト認メルカ如キモ隠居ハ即チ戸主権喪

ノ直接原因ニシテ之ニ因リテ相續問題ヲ生

セシメルモノナレハ本章ハ戸主権ノ喪失ニ

関スル本節ニ於テ隠居ニ関スル規定ヲ掲ケ

其相續ニ関スル所ハ之ヲ相續編ニ掲ケルニ

トヽ為セリ

第七百五十條　戸主ハ左ニ掲ケル條件ヲ具備

スルトキハ隠居ヲ為スコトヲ得ス

一　満六十年以上ナルコト

二　完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相

續ノ單純承認ヲ為スコト

（理由）本條乃至第七百二十二條ハ隱居ニ關スル規定ニシテ既ニ本條ハ改成法典財産取得編第三百二條ニ修正ヲ加ヘ隱居ヲ為スニ必要ナル法律上ノ條件ヲ指定セリ蓋シ一家ノ戸主タル者ヲ自己ノ安逸ヲ計リテ隨意ニ戸主權ヲ讓リ或壯年有為ノ戸主カ隨意ニ隱居ヲ為シテ其カ為ニ私ノ利益ニ盡サヾルカ如キハ家族制度ノ本旨ヨリ推スモ亦一般經濟上ノ利益ヨリ見ルモ決シテ看過スベキモノニ非ス又戸主カ隱居ヲ為スニ以上ハ戸主タルハ身分ニ於テ負担スル義務ハ總テ之ヲ免ルハコトヲ得ヘキモノナレバ尚ホ戸主カ隨意

法典調査會

ニ隠居ヲ為スコトヲ得ンニ於テハ之カ為メ
ニ債権者ニ不慮ノ損害ヲ被ラシムルコト決
シテ少シトセス故ニ隠居ハ法律上之ヲ認メ
サルヲ以テ至当ト為ストノ主張論ナキニ非
スト雖モ我国ニ於テハ既ニ隠居ノ風習久行
シ一朝之ヲ禁止スルハ頗ル妥当ナラサルノ
ミナラス実際上戸主タルハ位置ニ堪ヘサル理
由アル為ヲシテ強ヒテ戸主タラシムルハ其
當ヲ得サルニ因リ本案ハ既成法典ノ如ク法
律上隠居ヲ為スコトヲ公認スト雖モ豫メ其
要件ヲ指定シテ適当ノ制限ヲ加ヘ隠居ノ制
度ニ因リテ生ズル種々ノ弊害ヲ豫防セリ

左ニ隠居ヲ為スニ必要ナル條件ニ関シ既成法典ニ多少ノ修正ヲ加ヘタル諸点ヲ説明セン

一、壮年ノ戸主ヲシテ濫リニ隠居ヲ為サシムルノ不得策ニシテ且不必要ナルコトハ言フヲ要セサル所ナルニ因リ相當ノ老年ニ

法典調査會

一達スルニ那サレハ隠居ヲ為スコトヲ得サラシムルハ固ヨリ至當ノ制限ナルベシ而シテ此年齢ニ付テハ或ハ七十歳トシ或ハ五十歳ト為ス先例アリト雖モ一般ニ我國人民ノ心身衰耗ノ状況ニ徴スルトキハ既成法典ノ如ク滿六十歳ヲ以テ隠居年齢ト

為スコト其効ヲ得タルモノト認ムルニ因リ本案ハ即チ此例ニ従フト雖モ既成法典ノ如ク隠居ヲ以テ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スル旨ヲ明示スルハ言フヲ要セサル所タルニ因リ本案ハ別ニ此要件ヲ掲ケタルヲ却テ隠居ノ取消ヲ規定スルニ当リ

本人ノ任意ニ出テサル隠居ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘキ者ヲ認メタルニ依リテ立法上ノ体裁ト実際ノ必要ニ適セシメタリ

二、戸主ハ身分ニハ特別ノ権利義務ノ伴フモノナレハ戸主カ隠居ヲ為スニ当リテハ此等ノ権利義務ヲ継承シテ一家ノ長タル

ニ堪ユル者カ単純ニ家督相續ヲ為スコト
ヲ要スルハ如論ナシト雖モ既成法典ノ如
ク右ノ場合ニ於テハ実際家政ヲ執ルノ能
力アル家督相續人ノ存スルコトヲ必要ト
為スハ相續人タル者ノ條件頗ル嚴ニ失シ
且実際家政ヲ執ルニ堪ユルヤ否ヤハ甚タ
判然シ難キヲ以テ本案ハ單ニ完全ナル能
力ヲ有スル家督相續人タルヲ以テ足レリ
トシ其能力ヲ有セルト無能力者ナルトハ能
力ニ関スル総則編ノ規定ニ従ヒ之ヲ定メ
ルヿヽモノト為セリ其他既成法典ハ家督
相續人カ単純ノ受諾ヲ為スコトヲ要スト

ニフニ止マルト雖モ之レ固ヨリ相續ニ關
スルモノナレハ本案ハ明カニ相續ノ單純
承認ヲ為スコトヲ要スト雖單純承認ノ何
タルヤハ相續編ノ規定ニ依リテ明白ナラ
シムルモノトス
三、既成法典ハ隱居ヲ為スニ付キ必ス配偶者
ノ承諾アルコトヲ要セリ之レ戸主カ戸主
權ヲ喪失スルニ付テハ其配偶者モ亦利害
關係ヲ有スルコト甚タ大ナルニ因リ類ス
要旨ノ規定ナル可シト雖モ法律上ノ通則
トシテ此條件ヲ掲クルハ其當ヲ得タルモ
ノニ非ス何トナレハ戸主タル夫ヲシテ其

法典調査會

妻ノ承諾アルニ非サレハ隠居ヲ為スコトヲ得サラシムル如キハ我国ノ人情風習ニ適セサルノミナラス隠居ヲ為サシトスル戸主ハ必ス其配偶者ナルニ限ラサレバナリ只有夫ノ女戸主カ隠居ヲ為スニ当リ此者ニシテ其夫ノ承諾ヲ求メシムルハ至當ノ制限ナルベキニ因リ本案ハ配偶者ノ承諾ヲ以テ隠居ヲ為スニ必要ナル條件ノ通例ト為サスシテ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ為ス場合ニ於テ此條件ヲ必要ト為セリ

第七百五十一條　戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ再後家政ヲ執ルコトヲ得サルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得

ヲ隱居ヲ為スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルベキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

（理由）本條ハ既成法典財產取得編第三百七條ト同一ノ趣旨ニ基ツクト雖モ聊カ適用ノ範圍ヲ擴張セリ抑モ法律上隱居ナルモノヲ公認スト所以ハ主トシテ實際家政ヲ執ルヲコト能ハサル狀況ニ立ツ戶主ヲシテ

強ヒテ戶主タラシムルハ却テ實際上ニ不利不便ノ點アルニ過キサルニ因リ右ノ事由ノ存スル以上ハ隱居ヲ為スコトヲ得セシムルヲ以テ至當ト認メタルニ因リ故ニ本案モ亦既成法典ノ如ク戶主カ疾病本家相續其他當業上ノ必要ナル務上ノ理由ノ如キ止ムコト

ヲ得サル事由ニ因リ実際家政ヲ執ルコト能
ハサル状況ニ立至リタルトキハ隠居ヲ為ス
ニ必要ナル条件ヲ具備セスシテ隠居ヲ為ス
コトヲ許スト雖モ既成法典ノ説ク此等ノ事
由ノ存スルトキハ單ニ年齢ノ条件ヲ省略シ
ルコトヲ得ルニ止ムルハ聊カ拙キニ失スト

法典調査會

云ハサルヘカラス何トナレハ本家相續ノ場
合ノ如キハ完全ナル能力アル家督相續人ナ
キニ拘ハラス分家ノ戸主ヲシテ本家ヲ相續
セシムル必要アルニ因リ此ノ如キ場合ニ於
テハ單ニ年齢ノ條件ヲ省略スルニ止マラサ
レハナリ故ニ本案ハ本條ノ場合ニ於

テハ隠居ノ要件ニ関スル前條ノ規定ニ拘ハラス隠居ヲ為スコトヲ得トシ其適用ノ範囲ヲ適当ニ擴張スト雖モ之カ為メニ一家断絶ノ結果ヲ生セシムルカ如キハ固ヨリ之ヲ制止セサルヘカラサルニ因リ特ニ但書ノ規定ヲ設定シ以テ此禁ヲカラシメタリ

法典調査會

其他隠居ニ関スル事項ハ従来行政官廳ノ管轄ニ属セシト雖モ隠居ヲ為スコトハ本人其他利害関係人ノ権利ニ重要ナル関係ヲ有シ且本條ノ場合ノ如キ法定ノ要件ニ及ヒテ隠居ヲ為スニ当リテハ其事由ノ確実ナルコトヲ保チ濫リニ公私ノ利益ヲ害スル

コトヲカラシメサルベカラザルニ因リ本案ハ固ヨリ既成法典ノ如ク本條ノ場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ必要ト為スト雖モ裁判所ノ管轄権限ニ至リテハ裁判所構成法ニ於テ之ヲ規定スベキニ係リ本案ハ本條ニ掲クル事項ヲ以テ直チニ正裁判所ノ管轄ニ属セシムル既成法典ノ例ニ倣ハサルモノトス

第七百五十二條

（理由）戸主独ニ女戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトスルコトハ実際上往々見ル所ニシテ家ヲ重ンジ戸主タル位地ヲ忽カセニスルコトカラシメントスル趣旨ニ拘泥スル

スハトキハ或ハ戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ
入ルコトヲモ禁セザルベカラズト雖モ之レ
頗ル人情ニ反シ実際ノ事情ニ適セサルヿ
ナラス既ニ法律上女戸主ノ存在ヲ認ムル以
上ハ此者カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ
得ストセハ其結果強ヒテ女戸主ヲシテ婚姻
ヲ為スコト能ハサル事情ニ陥ラシムルヿ互
ニ何トナレハ女戸主カ他ニ婚嫁スルコト
ハ容易ナルモ入夫ヲ迎フルコトハ実際甚タ
困難ナレハナリ故ニ男女両戸主カ互ニ婚姻
ヲ為シ或ハ戸主カ他家ノ者ト結婚シテ他家
ニ入ルコトヲ許サヽルベカラズト雖モ

此場合ニ於テハ他家ニ入ラントスル者ハ自家ノ戸主タル權利ヲ失ハザルベカラザルハ当然ニシテ此事タルヤ一身一家ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有シ且隱居ノ要件ヲ具備セスシテ戸主權ヲ喪失スルモノナレハ濫リニ此結果ヲ生ズルコト勿カラシムルコトヲ要ス

之レ本案ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキハ恢モ前條ノ場合ニ於ケルカ如ク隱居ノ要件ヲ具備セサルモ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ為シ且ツ後他家ニ入ルヘキモノト為ス所以ニシテ即チ本條ノ

事由ヲシテ隱居ヲ為スヿ止ムヿナキ理由ト認ムト雖モ婚姻ハ前條ニ所謂已ムヿヲ得サル事由中ニ包含セサルヿ因リ別ニ本條ノ明文ヲ掲クルモノトス

第七百五十三條

〔理由〕女子ト雖モ戸主タルヿヲ得ルハ法律ノ認メタル所ナリト雖モ從來ノ風習亦ヿ一家組織ノ必要ヨリ見ルモ夫婦ハ其夫ニ從順タルヿヲ要シ或ハ女子ハ家督相續ノ順位ニ於テ男子ノ後ニ立タサルヿ立法ノ本旨ニ徴スルモ女戸主ハ変例ニシテ通常男子カ戸主タルヿキハ疑ナキ所トス故ニ女

法典調査會

子カ一旦戸主ト為リタルモ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ為ス以上ハ女戸主ノ年齢カ滿六十歳ニ達セサルモ戸主權ヲ讓リテ退隠スルコトヲ得セシムルハ却テ立法ノ本旨ニ適シ實際ノ必要ニ適スルモノトスル之レ本條第一項ハ女戸主カ隠居ヲ為スニ当リテハ年齢ニ関スル法定ノ要件ニ從フコトヲ要セスト為ス所以ナリ

三ニ又ヒテ隠居ヲ為スニ必要ナル條件ノ通則トシテ配偶者ノ系統ヲ其中ニ加ヘサルコトハ既ニ第七百五十條ニ於テ說明セシ如クナリト雖モ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ為スニ当

りうも左の通則に従ひ配偶者の義務の要セスト為スに於テハ夫婦の倫序に悖り一般の風習と反スるのみならず婦人其夫に従順タルコトの要スル義務の盡サヾるこゝハもの

ナしハ本條第二項ハ有夫の女戸主か隠居の為スこハ其夫の承諾の要ストシ即チ第七百

法典調査會

五十條に掲クル所の要件以外に特別の要件を加へんとするも如上の場合に於テ夫ハ自己の利益の為メに或ハ不正の事由に基キ其承諾の無クルコトを拒ミ之か為メに隠居の為スに必要なる他の條件か具備し且実際隠居の為スコトの得セしメサるへからさる事

情ノ存スルニ拘ハラス女戸主ヲシテ隠居ヲ為スコト能ハサラシムル禁ナシトセス之レ本條第二項但書ノ規定ヲ設クル所以ニシテ夫カ正當ノ理由ナクシテ其婦タル戸主カ隠居ヲ為スコトヲ拒ムトキハ女戸主ハ裁判所ニ請求シテ夫ノ承認ヲ求ムルコトヲ得ベシ

法典調査會

第七百五十四條

(理由) 本條ハ隠居ノ効力発生ノ時期ヲ規定スルモノニシテ改成法典財産取得編第三百十條及ヒ第三百十一條ヲ修正セリ即チ改成法典ノ規定ニ依レハ隠居ノ効力発生ノ時期ハ頗ル曖昧ニシテ第三百十條ニ於テハ身分

取扱吏ニ届出テタル時ヨリ以テ効力発生ノ時
期ト為スモノノ如リ而シテ第三百十一條ニ
於テハ右届出前ノ利害関係人ノミニ対シテ
ハ第三百八條ニ掲クル所ノ故障期間満限ノ
時又ハ故障ノ棄却ヲ確定シタル日ヲ以テ効
力発生ノ期時ト為スモノナレハ其結果ハ即

チ或人ニ對シテハ相續人カ戸主タルトキ或人
ニ對シテハ隠居カ尚ホ戸主タル力如キ実際
上頗ル煩雑ナル関係ヲ生スルコトヲ免レサ
ルヘシ故ニ隠居ノ效力発生ノ時期ハ既成法
典ノ如クヨリ二段ニ分ツコトハ其当ヲ得サ
ルモノニシテ寧ロ其草案ノ如ク確一ノ時期

の指定スルヲ以テ至當ト認ムルニ因リ本案
ハ即チ隱居者及ビ其家督相續人ヨリ戸籍吏
ニ屆出テタル時ヨリ隱居ノ効力ヲ発生スル
モノトスルモノ蓋シ此主義ハ婚姻緣組等ニ通
シテ一般ニ本案ノ採用スル所ニシテ最モ実
際ノ事情ニ適スルモノトスルベシ

法典調査會

本條第二項ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ此
ニ豫想スル事項ハ実際上往々発生スル事実
ニシテ此場合ニ於テハ戸主タル資格ト婚姻
トヲ相兩立セシムルノ不當ナルコト固ヨリ
論ヲ俟タサル所ナレハ戸主ヲシテ隱居セシ
ムルカ將タ婚姻ヲ取消サシムルカニ付キ孰

ヒカ其一ヲ撰マサルベカラス而シテ一旦成立シタル婚姻ヲ取消サシムルコトハ何レノ点ヨリ之ヲ見ルモ許スベカラザルニ因リ本條第二項ハ戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ為シタルモノト看做シ之ニ依リテ実際ノ事情ニ適セシメタリ

法典調査會

第七百五十五條

理由　改成法典財産取得編第三百八條ハ隱居ニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨ヲ認ムルモノニシテ立法ノ本旨ハ固ヨリ至當ノ事ニ属スト雖モ故障ノ效力ニ関スル立法主義ハ判然タラサルカ如シ即チ故障ノ

申立ハ隠居ノ成立ヲ妨クル人カ如シト雖モ第
三百十條ノ規定ニ依レハ故障ノ有無ニ拘ハ
ラス届出ニ因リテ隠居ハ成立スルモノノ如
クナレハナリ而シテ本案ハ既ニ前條ニ於テ
隠居ハ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルニ因リテ其効
カヲ生スベキコトヲ確定シタルヲ以テ隠居

ヲ為スニ必要ナル法定ノ條件ヲ缺キタル場
合ニ於テハ既ニ成立シタル隠居ヲ取消スコ
トヲ得ヘキモノトシ取消ノ效力ハ法律行為
ノ取消ニ関スル総則編ノ通則ニ依リテ之ヲ
定メシムルモノニシテ之ニ依リテ立法主義
ヲ別如ナラシムルト同時ニ隠居ヲ為スコト

ニ付キ利害関係ヲ有スル親族及ビ女戸主ノ夫ノ利益ヲ保護シ且公私ノ利益ヲ保護スル族事ヲシテ右ノ取消権ヲ行フコトヲ得セシムルモノトス

本條第二項ハ改成法典財産取得編第三百九條第一項ノ範囲ヲ縮小シ女戸主カ其夫ノ承諾ヲ得スシテ隠居ヲ為シタル場合ニ限ルモノニシテ之ニ本案ハ既ニ第七百五十條ニ於テ設明セシ如ク一般ニ配偶者ノ承諾ヲスシテ隠居ノ要件ノ通則ト為サヽリシ当然ノ結果タルニ過キス

第七百五十六條

理由　隱居ハ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スルハ別ニ法律ノ明文ヲ俟タサル所ニシテ家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ為スコトヲ以テ隱居ノ要件ト為スコトハ既ニ第七百五十條ノ明示スル所ナレハ第七百五十四條ハ即チ隱居カ其効力ヲ生スルニハ隱居者及ヒ家督相續人ヨリ隱居ノ届出ヲ為スコトヲ必要トセリ然ルニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ為スニ至リタルコトハ実際上往々ニシテ存スル所ナレハ斯ノ如ク本人ノ任意ニ出ツサル隱居ハ之ノ取消スコトヲ得セシムルヲ以テ至當

法典調査會

トス而シテ既成法典財産取得編第三百八條

第二項ハ任意ニ出テサル隱居ニ付テハ隱居者ニ代テ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨ヲ認メト雖モ家督相続人ニ付テ之ヲ認メサルハ其缺點トスルヘカラザルニ因リ本案ハ家督相続人ニモ隱居ノ取消權ヲ行フコトヲ得セシメ且既成法典ノ如ク故障期間ヲ以テ僅ニ隱居届出ノ日ヨリ二十日ト為スハ短期ニ失スル弊アルニ因リ本案ハ隱居者又ハ家督相續人カ其詐欺ニ陷リタルコトヲ発見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノト為セリ

其他詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ為シタルトキ本人カ此隱居ヲ追認スルハ以上ハ強ヒテ之ヲ取消サシムルヘキ必要ナキヲ以テ本案ハ特ニ本條但書ノ規定ヲ設ケ本人カ追認ヲ為シタルトキハ以後隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得サル旨ヲ明カニセリ

隱居ヲ為スコトハ公私ノ利益ニ種々ノ関係ヲ有スルモノナレハ既成法典財産取得編第三百八條第一項ハ隱居者ノ親族及ビ後見人ニモ隱居ニ代テ故障ヲ申立ツル權利ヲ認メタリ

モノニシテ本案モ亦本條第二項ニ於テ此等ノ者ニ隱居ノ取消權ヲ與ヘタリ然レトモ隱

戸籍又ハ家督相續人ヲ詐欺ニ因リテ隠居ノ
届出ヲ為シタルコトヲ知リ又ハ隠居ノ
届出ヲ為スコトニ強要セラレタルモ既ニ此
強迫ノ状態ヲ免レテ隨意ニ隠居ノ取消ヲ請
求スルコトヲ得ル状態ヲ復シタルトキハ
又敢テ其取消ヲ請求セサルニ於テハ假令多
少ノ利害関係ヲ有スル親族又ハ公私ノ利益
ヲ保護スル検事タリトモ他ヨリ隠居ノ取消
ヲ請求シテ却テ当事者ノ意思ニ反スル結果
ヲ生セシムベキニ非ス故ニ既成法典ノ如ク
任意ニ出テサル隠居ニ付キ本人カ別ニ故障
ノ申立ヲ為サヽルニ拘ハラス親族又ハ検事

法典調査會

より隨意に故障の申立つることを得ること
は往々本人の意思に反し濫りに私事に干
渉せざるべからざるものなれば之を要する人
に隨居を為すことなき最も利害関係を有する人
者は本人及び其家督相續人たる人此等の者
の別に任意に出でざる隨居の取消を請求せ
ざる限りは他より之を取消さるべからず
ざるべし但隨居者又は家督相續人の隨居の
届出は詐欺に因りて之を為さしめらるる
ことを知る人又は隨居の届出を為すことを
強要せらるる強迫の状態を尚ほ存續する人
間は親族又は後見人より隨居の取消を請求

スハコトヲ得セシメン人ヲ事者ノ利益ノ為メ其他ノ私ノ利益ノ為メ其必要アルモノヲトハ本條第二項ハ即チ隱居者又ハ家督相續人ガ詐欺ノ発見セラ又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ扶養ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スハコトヲ得ルモノト為セリ加之假令親族又ハ扶養ガ右隱居場合ニ於テ隱居ノ取消ヲ請求スルモ隱居者又ハ家督相續人カ其任意ニ出テサル隱居ヲ追認スルトキハ他ヨリ強ヒテ隱居ノ取消サシムベキ理由ナリ寧ロ事者ノ意思ニ従ハシメザルベカラサルニ因リ本條第二項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケ隱居者又

ハ換言ノ隠居取消権ハ消滅スヘキ旨ヲ明カニセリ

其他隠居ノ取消ハ戸主権ノ所在ヲ変更セシメ種々ノ法律関係ニ重大ナル関係ヲ有スル事情モナレハ隠居ノ届出ニ付キ如何ナル事情ノ存セルニ拘ハラス右ノ取消権ヲ永ク存立セシムルコトハ法律上ノ実際ニ於テ其当ヲ得タルモノニ非ス是レ即チ本條第三項ハ隠居ノ取消権ノ消滅ニ付キ特別時效ヲ定メル所以ニシテ隠居届出ノ日ヨリ十年内ニ非サレハ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得サルモノト為セリ

第七百五十七條

（理由）隱居ヲ為シ又ハ之ヲ取消スコトハ隱居者ノ債權者又ハ家督相續人ノ債權者ニ対シ重要ナル利害關係ヲ有スルニ拘ハラズ既成法典ハ此等債權者ノ利益ヲ保護スルニ付キ別ニ規定ヲ設ケサルハ其不備缺點トスルハサルベカラズ故ニ本案ハ先ツ隱居ノ取消ニ關スル規定ニ連續シテ本條ノ規定ヲ設ケ隱居取消ノ場合ニ於ケル債權者ノ利益ヲ保護スルモノトス

隱居取消以前ニ家督相續人即チ其当時ノ戸主タル者トノ關係上此者ニ対シテ債權ヲ取

法典調査會

得スル者ノ多ク存スルコトハ更ニ言フヲ要
セサル所ニシテ此等ノ者ハ通常其相手方カ
戸主タル身分ヲ有スルコトニ拘キテ置リモ
ノナレバ一朝隠居取消ニ因リテ隠居者カ戸
主ニ復シ右ノ相手方カ戸主タル身分ヲ失ヒ
テ家督相続人タル位置ニ復シタル場合ニ於
テ前ニ戸主タル身分ニ於テハ家督相続人ニ
対シテ権利ヲ取得シタル債権者カ隠居ノ取
消ニ因リテ戸主ト為リタル者ニ対シ其権利
ヲ行フコトヲ得サルニ於テハ往々不慮ノ損
害ヲ被ムルコトアルハ敢テ辯明ヲ要セサル
ベシ故ニ隠居取消ノ場合ニ於テ債権者ノ利

益ヲ保護シ取引ノ安全ヲ保タントスルニハ
隱居ノ取消以前ニ家督相續人即チ其当時ノ
戸主タル者ノ債權者ト為リタル者ヲシテ隱
居ノ取消ニ因リテ戸主ニ復シタル者ニ對シ
辨濟ノ請求ヲ為スコトヲ得セシムルノ外ナ
キヲ以テ本條第一項ハ此趣旨ヲ明示スルノ
ミナラス又タ此規定ノミヲ掲クルニ止ムル
トキハ債權者ハ爾後家督相續人ニ対シテ其
權利ヲ行フコトヲ得サルカノ疑ヲ生セシム
ルヲ以テ本條第一項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設
ケ債權者ハ家督相續人ニ對シテモ辨濟ヲ請
求スルコトヲ得ヘキ旨ヲ明カニシ之ニ依リ

法典調査會

テ債権者ノ利益ヲ充分ニ保護スルモノトス

然レトモ債権取得ノ当時ニ隠居ノ取消原因

ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相続人

ノ戸主タル身分ニ重キヲ置カスシテ却テ家

督相続人ノ身上ニ着眼シ後日隠居ノ取消カ

行ハルルモ自己ノ利害ニ関係ヲ有セサルコ

トヲ豫期セルモノトスハサルヘカラサルニ

因リ斯ノ如キ債権者ニ對シテハ本條第一項

ニ掲クル所ノ特別保護ヲ與フルヲ必要トシ故

ニ本條第二項ハ債権取得ノ當時隠居ノ取消

原因ノ存スルコトヲ知リタル債権者ハ家督

相続人ニ對シテノミ弁済ノ請求ヲ為スコト

ヲ得トシ之ニ依リテ法律保護ノ適度ヲ保タシムルモノトス其他本項未殷ニ規定スル所ノ家督相續人ノ一身ニ專屬スル債務ニ付テハ其債權者ハ亦家督相續人ニ対シテノミ承諾ノ請求ヲ為スコトヲ得ルニ止マルベキハ別ニ設明ヲ要セサルベシ

法典調査會

第七百五十八條

(理由) 本條ハ家ヲ重ンスル法ノ本旨ト從來ノ慣例トヲ參酌シテ戸主ノ任意ニ出ツサル隱居ヲ為サシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ認メ且ツ此事タル十極メテ重大ナル事件タルニ拘ハラス容易ニ種々ノ禁害ヲ生セシムルニ

因り左ノ隠居ヲ為サシムルニ付キ必要ナル
條件ヲ指定スルモノトスル蓋シ戸主ハ一家ノ
柱石トシテ家長ノ位置ニ立ツモノナレハ若
シ戸主タル者カ其任ニ適セサルニ因リ一家
ノ存立ヲ危カラシムル如キ事由ノ存スル場
合ニ於テハ一家ノ長タル戸主ト雖モ之ヲ廃

シテ適当ナル相續人ヲ立テ一家ノ存立ヲ安
全ナラシムルコトヲ要スル之ニ家ヲ以テ社会
ノ基礎ト為ス国家主義ノ當然ノ結果ニシテ
一家ハ戸主ノ為メニ存スルニ非スシテ戸主
ハ一家ノ為メニ存スルモノナレバナリ然レ
トモ戸主ヲ廃スルコトハ不人ハ勿論其家ニ

取り亟に利害関係人に取りて重要なる関係
を有するものなしとは軽易なる事由に基き濫
りに戸主を廃するが如きは決して許すべから
ざる所なりと雖も法律上豫め其事由を指定
することは部て実際の事情に適せざる虞あ
るに因り本條第一項は即ち一家の為め重大
なる事由あるときに限り戸主をして其意に
反するも隠居を為さしむることを得へきも
のとし且斯の如き強制的の隠居は一私人の
力に依りて之を為さしむることを得ざるの
みならず単に一家の為め重大なる事由の
存するや否やを監視して濫りに戸主を廃セ

ントスル禁害ヲ豫防スル必要アルニ因リ本
案ハ裁判所ヲシテ本條ノ場合ニ於テ戸主ニ
隱居ヲ命セシムルモノト為サリ其他一家ノ
為メ重大ナル事由アルトキハ何人ト雖モ廢
戸主ノ命令ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ル
ニ於テハ私利私情ノ為メニ濫リニ此請求ヲ

為スニ至ルヲ免レベカラサル禁害ニシテ戸
主ノ養父母、継父母、嫡母ノ如キモ尚ホ且私情
ニ制セラレテ不尚ニ廢戸主ノ請求ヲ為スコ
トアルハ事実上疑ヲ容レサル所タルニ因リ
本條第一項ハ即チ廢戸主ノ請求ハ戸主ノ実
父母ニシテ其家ニ在ル者ノ発議ニ基キタル

親族会ヨリ之ヲ為スコトヲ得ンニ止マルヲ
以テ本則ト為セリ而シテ廃戸主ノ発議ヲ為
スコトヲ得ハ実父母ハ戸主ノ家ニ在ル者タ
ルコトヲ要スル所以ハ假令実父母タリトモ
既ニ戸主ノ家ニ在ラサル以上ハ此家ノ存立
ニ付キ敢テ容喙スベキ限ニ在ラサレバナリ

法典調査會

本條第二項ハ第一項ノ規定ニ因リ廃戸主ノ
発議ヲ為スコトヲ得ル実父母ノ一方ガ欠レ
サルトキ死亡シタルトキ又ハ心神喪失等ニ
因リ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ
他ノ一方ノミニテ発議ヲ為スコトヲ得ベキ
旨ヲ認メ又本條第三項ハ父母共ニ左ニ述フ

ハ如キ狀況ニ存スルトキハ父母ノ發議ナキモ親族会ノ請求ニ因リテ裁判所ハ戸主ニ隱居ヲ命スルコトヲ得ヘキ旨ヲ認ムルハモノニシテ之ニ依リテ実際ノ必要ニ應セシムルモノナリ

第七百五十九條

法典調査會

理由戸主カ隱居ヲ為スコトハ此者ノ債權者及ヒ債務者ニ種々利害關係ヲ及ホスコトヲ更ニ言フヲ要セサル所ナレハ仮令隱居ノ故カハ其面出ニ因リテ既ニ発生シタルモ未タ隱居ノ事実ヲ知ラサル債權者又ハ債務者ニ対シテ其故カヲ主張スルコトヲ得セシムル

に於テハ此等ノ者ヲシテ往々不慮ノ損害ヲ
被ウシメ法律保護ノ不完全ナル譏ヲ免レサ
ルベシ然レトモ隱居ハ必スシモ隱居者ノ債
權者又ハ債務者通知スルコトヲ要スト雖又
ハ必ス公示ノ方法ヲ盡サヾルベカラズト為
スガ如キハ頗ル煩雜不便ニシテ實際ノ事情
ニ適セサルベシト雖モ既成法典ノ如キ此等
保護ノ方法ニ付キ別ニ何等ノ規定ヲ設ケサ
ルハ其欽点トスルハサルベカラス故ニ本案ハ
法律保護ノ必要ト實際ノ事情トヲ斟酌シテ
特ニ左條ノ規定ヲ設ケ隱居者又ハ家督相續
人ヨリ隱居者ノ債權者及ヒ債務者ニ隱居ノ

ノ通知ヲ為スニ非サレハ此等ノ者ニ對シ隱居ノ効力ヲ主張スルコトヲ得ストシ之ニ依リテ殊更ニ通知ノ義務ヲ負ハシメサルモ自ラ通知ヲ為スコトヲ怠タラサリシトキハト同時ニ債權者及ヒ債務者ノ利益ヲ適當ニ保護スルモノトス

法典調査會

第七百六十條

(理由) 本條ハ隱居以前ニ隱居者ノ債權者ト為リタル者ニ対スル特別保護ヲ規定スルモノニシテ債務者タル戸主カ隱居ヲ為スニ因リ溢リニ其債權者ノ利益ヲ害スルコトヲカラシムルモノトス蓋シ戸主カ隱居ヲ為スト

キハ其以前ニ此者ニ對シテ債權ヲ取得シタ
ル者モ其以後ハ家督相續人ニ對シテ之ニ辯
濟ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マルハ隱居ノ
當然ノ結果タルニ拘ハラズ戶主カ隱居ヲ爲
スニ当リ其財產ヲ自己ノ所有トシテ之ヲ留
保スルトキハ假令債權者カ家督相續人ニ對

法典調査會

シテ自己ノ權利ヲ強行スルモ往々完全ニ辯
濟ヲ受クルコト能ハサル場合少カラズシテ
隱居ハ即チ戶主タル身方ニ於テ負担セ
ル債務ヲ免カレル一方便タルニ至ラン如ク
ハ斯ノ如キ禁令ヲ豫防シテ債權者ノ利益ヲ
保護スルコトハ極メテ必要ナルニ拘ハラズ

既成法典ハ此点ニ関シ別ニ規定ヲ設ケサル
ハ其歇斯タルニ因リ本案ハ即チ従来ノ慣例
及ビ判決例等ヲ参酌シテ特ニ本條ノ明文ヲ
掲ケ隠居以前ニ隠居者ノ債権者ト為リタル
者ハ其隠居者ニ對シテ辨済ノ請求ヲ為スコ
トヲ得ヘキ旨ヲ明カニシ且之レカ為メニ敢
テ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケサルコト
ヲ明示シ之ニ依リテ債権者ヲシテ其債務者
タル戸主カ隠居ヲ為スコトニ因リテ意外ノ
不利益ヲ被ラサルコトヲ効カラシメタリ

法典調査會

第七百六十一條

（理由）隠居ハ種々ノ法律上ノ効果ヲ生セシ

ムル包括的ノ法律行為タルニ外ナラサレバ
戸主カ其債権者ノ害スルコトヲ知リテ隠匿
ヲ為シタル場合ニ於テ法律ニ別段ノ規定ナ
キ限リハ右ノ債権者ハ所謂詐害行為ノ取消
ニ関スル第四百二十四條乃至第四百二十六
條ノ規定ニ因リ隠匿ノ取消ヲ請求スルコト
ヲ得ト云ハサルベカラス然レトモ隠匿ノ如
キ人ノ身分ニ関シ殊ニ種々ノ法律関係ニ重
要ナル関係ヲ有スル包括的ノ法律行為ヲシ
テ容易ニ之ヲ取消スコトヲ許シ従テ永ク不
確定ノ状態ニ存セシムルコトハ務メテ之ヲ
避ケサルヘカラサルノミナラス既ニ本案ハ

法典調査會

適當ナル方法ニ依リ隱居ノ場合ニ於ケル債
權者ノ利益ヲ充分ニ保護シタルニ因リ假令
隱居ヲ為シタルコトカ戸主ノ詐害ノ意思ニ
基ツクトモ其債權者ヲシテ一旦成立シタル
隱居ヲモ取消ス、コトヲ得セシムル必要ナカ
ルベシ且ツ即チ本條ニ於テ詐害行為ノ取消

ニ關スル第四百二十四條乃至第四百二十六
條ノ規定ハ隱居ニハ之ヲ適用セサル旨ヲ明
示スル所以ニシテ改成法典財產取得編第三
百九條第二項ノ規定ニ依レハ詐害ノ意思ニ
基ツク隱居ハ戸主カ之ヲ為サントスル前ニ
債權者ヨリ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルカ如

ヲ或ハ故障期間内ハ故障ノ申立ニ因リテ隱居ヲ無効ニ帰セシムルコトヲ得ルカ如ク願ル勝時ナルニ因リ本案ハ本条ノ明文ニ依リ假令詐害ノ意思ニ基ツキタル隱居ト雖モ債権者ヨリ其取消ヲ主張スルコトヲ得サル旨ヲ明白ナラシメタリ

法典調査會

第七百二十二條

理由　本條ハ既成法典財産取得編第三百十一條但書ノ規定ト同一ノ意義ヲ有シ固ヨリ至当ノ規定タルベシト雖モ既成法典ノ如ク隱居者ノ終身ヲ限度トスル權利義務トシテトキハ其範囲狭キニ失スル感ナキ能ハサル

ニ因リ本業ハ隠居者ノ一身ニ専属スル権利

義務ト改メタルニ過キス

第七百六十三條

（理由）本條及ヒ次條ハ戸主権喪失ノ一原因

タル廢家ニ関スル規定ヲ掲クルモノニシテ

就中本條ハ廢家ヲ為スコトヲ得ルモノヲ指

定シ家ヲ重ンスルハ立法ノ本旨ヲ全カラシム

ルモノトス蓋シ祖先ヨリ継承シタル家ヲ廢

スルコトハ極メテ重大ナル事件ニシテ我国

古来ノ風習ニ依ルモ殊ニ家ヲ以テ社會ノ基

礎ト為ス国家主義ニ依ルモ容易ニ之ヲ許ス

ベカラザルコトハ別ニ辨明ヲ要セサル所ナ

法典調査會

リト雖モ新ニ一家ヲ立テタル場合ニ於テハ假令戸主カ之ヲ廃シテ他家ノ家族ト為ルモ之レカ為メニ敢テ家ヲ重ンスル立法ノ本旨ニ悖ルニ至ラス却テ一旦新立シタル家ハ必スヽヲ維持スルコトヲ要ストセハ往々困難ナル事情ノ存スル アリテ実際ニ適セサル結果ヲ生スルコトヲ免カレ難シ故ニ本條第一項ハ新ニ家ヲ立テタル者ニ限リ隨意ニ其家ヲ廃シテ他家ニ入ルコトヲ得トシ以テ実際ノ事情ニ適セシメタリト雖モ家督相續ニ因リテ戸主ト為リタル者ハ既ニ説明セシ所ノ理由ニ因リ決シテ此例ニ従ハシムベキニ非サ

ルヲ以テ本條第二項ハ既成法典人事編第二百五十一條ノ如ク家督相續ニ因リテ戸主ト為リタル者其家ヲ廢スルコトヲ得サル旨ヲ明カニセリ且既成法典ハ此通則ニ對スル例外トシテ本家相續其他正当ノ事由アル場合ニハ廢家スルコトヲ得ベキ旨ヲ規定スト

雖モ本家再興ノ場合ニ於テモ分家ノ戸主ヲシテ分家ヲ廢セシムル至当ノ理由アルニ因リ本案ハ本條第二項但書ニ於テ此趣旨ヲモ明白ナラシメタリ

第七百二十四條

理由　本條ハ戸主カ適法ニ廢家シタルニ因

り其家族ニ及ホス戸籍上ノ効果ヲ規定スル
モノニシテ既成法典人事編第二百五十三條
ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルニ過キス

第七百六十五條

(理由) 本條ハ戸主ノ死亡ニ因リテ一家断絶
スル場合ニ関スルモノニシテ或ハ戸主権ノ
喪失ニ関スル本節中ニ之ヲ掲クルハ其當ヲ
得サルニ似タリト雖モ他ニ適當ノ場所ナキ
ヲ以テ廢家ニ関スル規定ニ連續シテ之ヲ掲
ケタリ而シテ本條ノ趣旨ハ既成法典人事編
第二百六十一條ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ
別ニ説明ヲ要セスト雖モ既成法典ノ如ク本

法典調査會

條ノ場合ニ於テ家族ハ總テ一家ヲ創立スト
云フニ止マル事トハ家族ニシテ他ノ者ノ子
タル者モ其父又ハ母ノ家ニ入ラスシテ別ニ
一家ヲ創立シ家族トシテ妻タル者モ其夫ノ
家ニ入ラスシテ別ニ一家ヲ創立スルヨトヲ
要スルカノ如ク解セラルルハ當然ノ結果タ
ル二因リ本案ノ時ニ本條第一項但書ノ規定
ヲ設ケ家族ニシテ他ノ者ノ子タル者ハ其父
ニ隨ヒ又父ノ死シサルトキ、他家ニ在ルトキ
若シハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ
入ルベキ旨ヲ明カニシ又本條第二項ノ規定
ニ依リ戸主ノ家族ニシテ夫タル者カ一家ヲ

法典調査會

創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入
ルベキ旨ヲ明カニセリ

法典調査會